

春の雨は艶美な夏の雨は爽快たといつても、
それは必ずしも日本の雨だけの特質にはあ
るまい。然し時々刻々に千変萬化する季節につ
いて、雨の表情も多様多様である。回は世界に
その比類がない。日本は雨の国だ。私の一外
友人は日本に三百六十五種の雨が降るとい
つた。この皮肉の言葉に、日本では雨が降るに
甲ふり續けるときは喜ばれが有る。

梅雨は陰鬱だと人はいふ。—— 華宮陰鬱に 桐葉

なにか私は梅雨に瞑想的幽情がある。詩の
魂を纏うに最も適当な時とて居る。殊に六
月の末、雨則あけ近くなる。雨の線が銀
筆道に光って他の場合に見らる小ないやな情
調がある。この情調にじつ々といふ。人に
幽鬱な昏トをそそる街上の一光景は、雨に打
た水ながら通る花屋だ。

外國でも街上で花を賣つて居る。但し其色
の黒い宇天を着た男が種々雑多の草花を賣つ
てある。よくやくな情趣は、別處他の回には見え